



上板橋第四小学校 令和7年度

第4回コミュニティ・スクール委員会だより

令和8年1月23日
上板橋第四小学校
校長 山藤 知子
CS委員長 平山 志保

第4回 会合の報告

12月15日(月)に行われました、第4回コミュニティ・スクール委員会の概要について、次のとおりお知らせします。

本年度の委員の皆様

《地域委員》

伊藤 恵美	委員	(PTA会長)
望月 治	委員	(上板橋一丁目町会長)
木下 奉章	委員	(上板橋二丁目会長、青健顧問)
平山 志保	委員	(地域コーディネーター)
下竹 敬史	委員	(さくら保育園長)
栂山 和人	委員	(元PTA会長)
島村 恵子	委員	(主任児童委員)
徳重 弘樹	委員	(元PTA役員、教育関係企業)
石井 眞由子	委員	(上四小あいキッズ責任者)

《行政委員》

山田 綾子	委員	(中央図書館長)
辰口 信子	委員	(上板橋保育園長)
増田 伸吾	委員	(常盤台地域センター所長)

委員長挨拶

師走に入り、2学期も終わろうとしています。2学期はインフルエンザやたくさんの行事がある等、子どもたちも先生方もよく頑張ってきました。3学期は次の学年への準備となると思います。引き続きよろしくお願い致します。

「かみよんのやくそく」については、1年近く話し合いを進めてきて、ようやくまとめとなるところです。本日は有意義な議論ができればと思います。

校長挨拶

本日は「かみよんのやくそく」と新しい教育目標についての熟議があります。たくさんのご意見を承れと思います。本日はよろしくお願い致します。

2学期の学校経営について

校長より、資料を基に2学期の学校経営について説明がありました。

「かみよんのやくそく」の見直しについて

副校長より、「かみよんのやくそく」の見直しについて、概要次の説明がありました。

今回の見直しは、「かみよんのやくそく」の中の「学習のきまり」について検討しました。児童と保護者にアンケート調査を行ったところ、児童の75.4%、保護者の81.4%が「見直す必要がない」と回答しました。このことから、学校としては今回「かみよんのやくそく」の見直しをしないという結論に至りました。

このことについて、先日のPTA役員会において承認を得ております。以上のように報告させていただきます。

今回の取組を通し、学校ではきまりの意味について子どもたちに改めて考えさせるきっかけになりました。また、持ち物についてご家庭で話し合うことができたなど、意義のある取組となりました。

熟議「『MIRAI SCHOOL いたばし』を踏まえた、新しい教育目標の検討について」

熟議の前に、校長より新しい教育目標のあり方について、概要以下の説明がありました。

令和8年度より、板橋区の教育ビジョンが「MIRAI SCHOOL いたばし」として新しく生まれ変わります。その中で、育んでいくチカラとして次の5つを示しています。

Motivation / 自分らしく進むチカラ
Inclusion / 認め合って生きるチカラ
Relation / つながり助け合うチカラ
Activation / 自ら行動を起こすチカラ
Innovation / ゼロから切り拓くチカラ

本校も、令和8年度より教育目標を新しくしていこうと考えています。そこで、この5つを踏まえ、次の案を考えました。

自ら考え創り出す子
認め合ってつながる子
たくましく生き抜く子

この3つが本校の新しいめあてとして相応しいかどうか、皆様のご意見をいただければと思います。

【Aグループより】

「自立 貢献 共生」という現在の教育目標は、日常で成功しているように見えます。

現在は、生成AIやSDGsなど、新しい価値観に取り囲まれる環境だからこそ、自ら価値を創造する力が必要になってきます。その意味からも、本校の新しい教育目標に「自ら考え創り出す子」を掲げるのは時代に合っていると思います。

また、外国籍の方々など、様々な方との関わりが増える世の中では、認め合う姿勢が大切です。「認め合ってつながる子」との目標もとても良いと思います。

「マルチステージの人生」、「変化の激しい世の中を生き抜く」等と表現される現代社会を鑑みると、児童にはたくましく生き抜く資質も大切だと思います。その意味で、3つ目の「たくましく生き抜く子」も良いと思います。しかし「たくましく」との表現は児童がイメージしにくく、「元気」との言葉に置き換えるのが良いと思います。

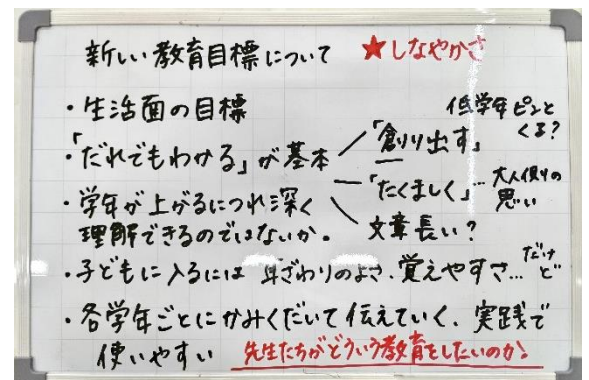
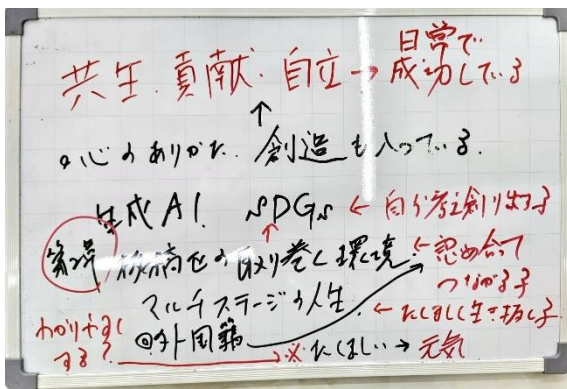
【Bグループより】

教育目標は、見て誰でも分かることが基本ですが、考える余地のある、「余白のある文章」であることも大切です。

各学年で学年目標を考えるときには、まず学校の教育目標を見て、自分たちの学年ではどのような姿と言えるのかを、その学年なりに考えます。学年によっていろいろな見方ができるような、考える余地のある文章であることが望ましいです。

掲げる目標として二字熟語を用いると覚えやすいですが、漠然とし解釈が難しいこともあります。長すぎても覚えられません。その意味から、新しい教育目標は、学年ごとにかみ砕いて伝えることができ、覚えやすく、実践に即したものだと思います。

0



本校教員も加わり、新しい教育目標について協議することができました。



次回予定
2月2日(月)14:10～
文責：副校長 高橋
委員長 平山